

みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち
農林水産研究の推進（委託プロジェクト研究）

革新的環境研究

東南アジアの小規模農家のための経済性を備えた温室効果ガス

排出削減技術の開発

令和6年度 研究実績報告書

課題番号 (e-Radシステム課題 ID)	23812018
研究実施期間	令和5年度～令和9年度（5年間）
代表機関	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門
研究開発責任者	白戸 康人
研究開発責任者 連絡先	TEL : 029-838-8148
	FAX : 029-838-8199
	E-mail : shirato.yasuhito165@naro.go.jp
共同研究機関	国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター
	日本大学文理学部

＜別紙様式2＞研究実績報告書

令和6年度 みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち
農林水産研究の推進（委託プロジェクト研究）
「東南アジアの小規模農家のための経済性を備えた温室効果ガス排出削減技術の開発」
研究実績報告書

I. 研究の進捗状況等

小課題1については遅れを取り戻し、圃場の準備を完了させ試験を開始することができ順調に進捗している。小課題2については機材の現地への輸送に手間取っており計画に遅れが生じているが、機材の設置を急ぐとともに、それをカバーするために試験管スケールの培養予備実験に着手した。

1. 高強度節水管理と深根性イネ等の組み合わせによるGHG排出削減技術の開発

R6年度はフィリピン・ベトナムの両国において、R5年度から持ち越したIR64及びIR64背景-3系統の輸出・増殖を完了させた。またGHG排出測定用チャンバ等、現地での調達・製作が必要となる機材類を含め圃場試験の準備を完了させた。当初からR6年度開始を予定していた乾期作における複数水準の水管理処理を導入した圃場試験についても、計画通りに開始した。さらにR6年度における雨期作試験について、フィリピン稲研究所では当初計画を復活させる形で実施し、計画の遅れを取り戻すことができた。

2. 家畜ふん尿メタン発酵消化液の水稲作肥料としての利用時に排出されるGHG削減技術の開発

メコンデルタ地域において、BODセンサの導入に最適な養豚-水田農家を選定し、試験遂行について同意を得た。疾病（豚熱）が発生した農家について、活動を再開していたことから、BODセンサの導入を準備中。汚水をセンサの測定レンジ内におさめるための連続希釈装置が完成しており、ベトナムに輸送した。農家への測定機器の設置が完了次第、測定を開始する予定である。